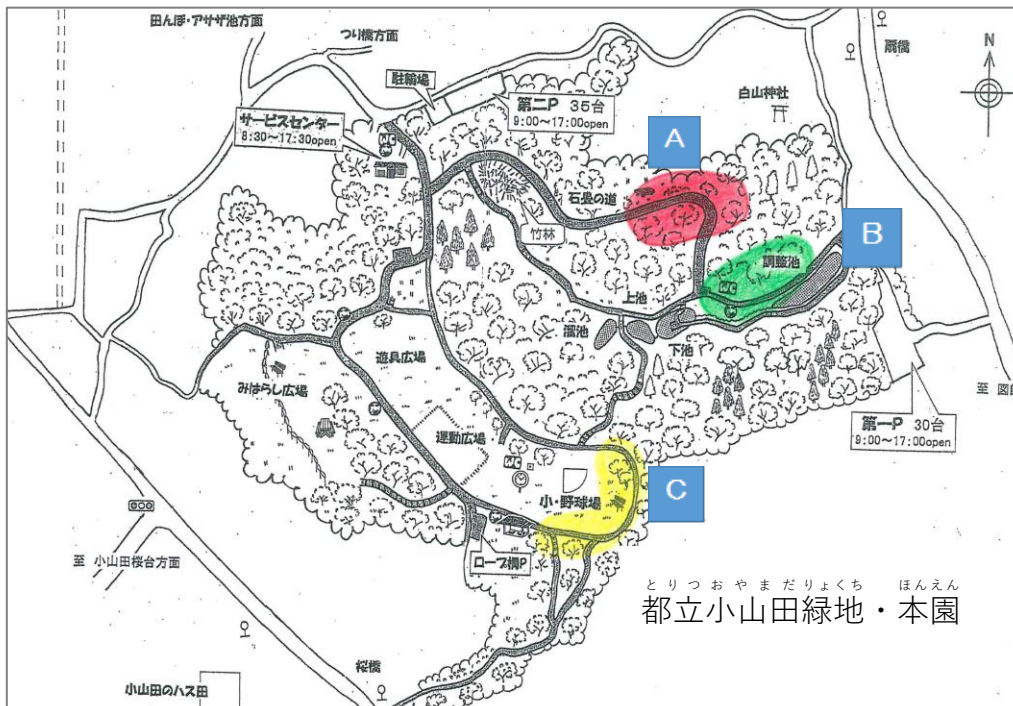


2022年 セミのぬけがら調査結果

まちだエコライフ推進公社では今年も都立小山田緑地でセミのぬけがら調査をおこないました。緑地内の本園でこの夏3回の調査をおこない、集めたぬけがらの数は合計478個でした。2020年以降ぬけがらの数は500個前後で推移していますが、2022年は2016年からの調査で最も少ない数でした。ぬけがらの数が少なかった要因としては、梅雨明けが遅かったこと、台風の影響や雨の日が多かったことが考えられます。ぬけがらの減少がそのまま続くのか、長期のモニタリングをしていく必要があります。

調査地について

都立小山田緑地は、町田市北西部の自然の豊かな丘陵地にあり、本園と三つの分園からなっています。セミのぬけがら調査は本園（下図）のABCの調査地でおこないました。



調査地A

昔からの里山で、一部クヌギなどの植栽がある。地面はほぼ一面下草に覆われているが、日当たりが良く、明るい場所。

調査地B

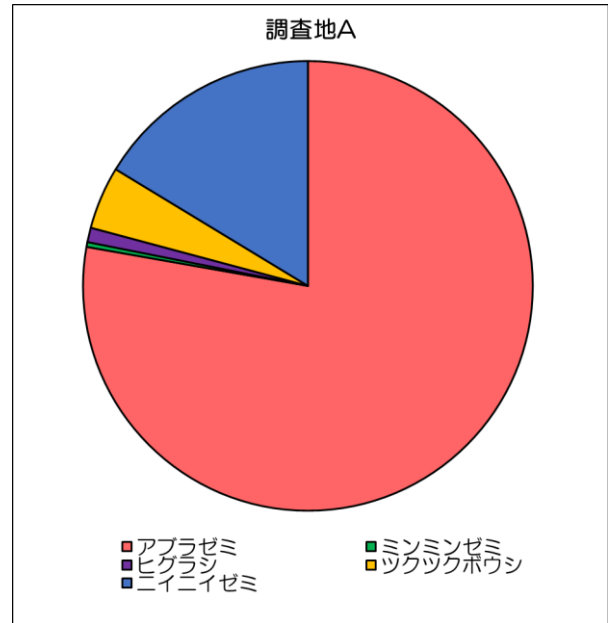
昔からの里山で、近くに池があり、全体的に湿気が多く、薄暗い。下草で覆われた部分と、地面が露出した部分がある。露出している地面は固く、コケが生えているところもある。

調査地C

昔からの里山と整備された植栽が両方ある場所。ほぼ一面下草や落ち葉に覆われているが、草が短く刈られているところと、膝丈くらいになっているところがある。

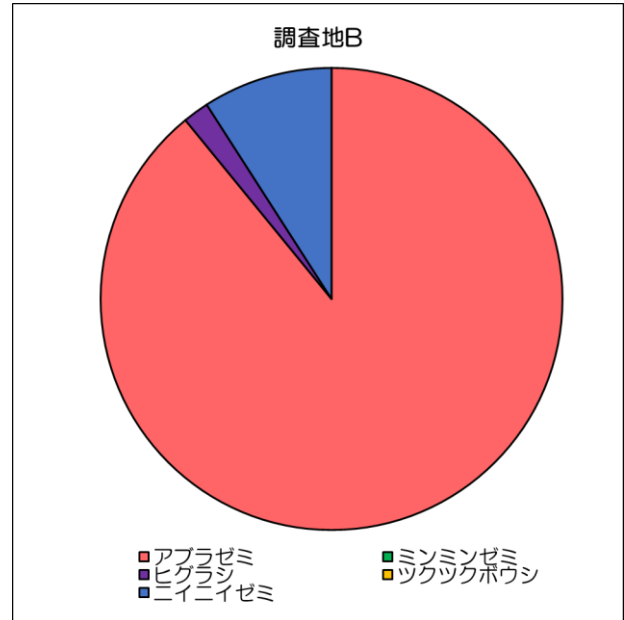
ちょうさち けっか
調査地Aの結果

しゅるい 種類	オス・メス	7月26日	8月9日	8月25日	けい 計
アブラゼミ	オス	14	76	32	122
アブラゼミ	メス		47	55	102
アブラゼミ	けい 計	14	123	87	224
ミンミンゼミ	オス	1	0		1
ミンミンゼミ	メス				0
ミンミンゼミ	けい 計	1	0	0	1
ヒグラシ	オス	1	1		2
ヒグラシ	メス		1		1
ヒグラシ	けい 計	1	2	0	3
ツクツクボウシ	オス		4	6	10
ツクツクボウシ	メス		0	3	3
ツクツクボウシ	けい 計	0	4	9	13
クマゼミ	オス				0
クマゼミ	メス				0
クマゼミ	けい 計	0	0	0	0
ニイニイゼミ	けい 計	30	14	3	47
	ごうけい 合計	46	143	99	288



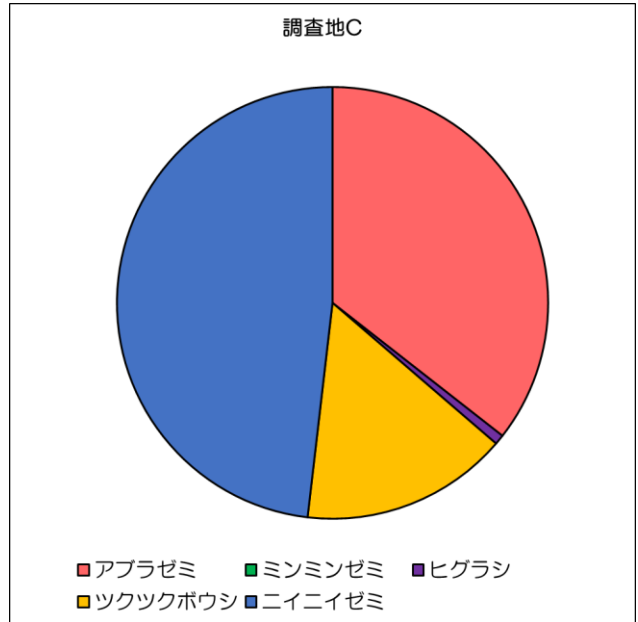
ちょうさち けっか
調査地Bの結果

しゅるい 種類	オス・メス	7月26日	8月9日	8月25日	けい 計
アブラゼミ	オス	2	11	13	26
アブラゼミ	メス		9	14	23
アブラゼミ	けい 計	2	20	27	49
ミンミンゼミ	オス				0
ミンミンゼミ	メス				0
ミンミンゼミ	けい 計				0
ヒグラシ	オス	1			1
ヒグラシ	メス	0			0
ヒグラシ	けい 計	1	0	0	1
ツクツクボウシ	オス			0	0
ツクツクボウシ	メス			0	0
ツクツクボウシ	けい 計	0	0	0	0
クマゼミ	オス				0
クマゼミ	メス				0
クマゼミ	けい 計	0	0	0	0
ニイニイゼミ	けい 計	3	1	1	5
	ごうけい 合計	6	21	28	55



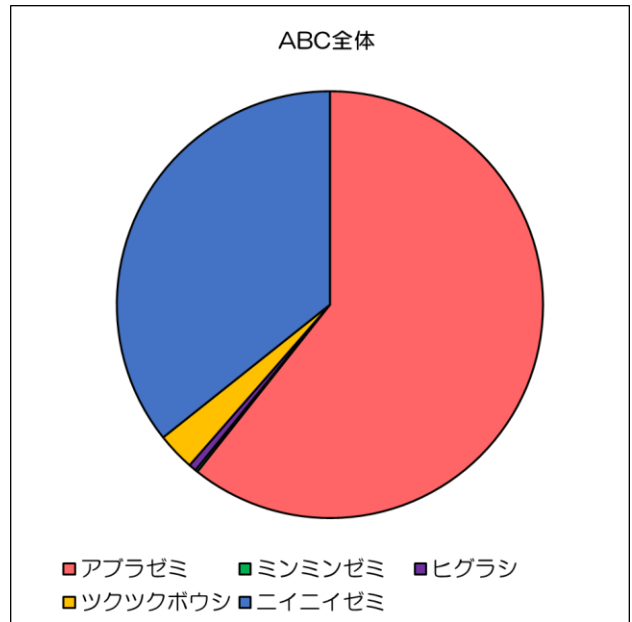
ちょうさち けっか
調査地Cの結果

しゅるい 種類	オス・メス	7月26日	8月9日	8月25日	けい 計
アブラゼミ	オス	0	25	2	27
アブラゼミ	メス	0	15	6	21
アブラゼミ	けい 計	0	40	8	48
ミンミンゼミ	オス				0
ミンミンゼミ	メス				0
ミンミンゼミ	けい 計				0
ヒグラシ	オス	1			1
ヒグラシ	メス				0
ヒグラシ	けい 計	1	0	0	1
ツクツクボウシ	オス		7	7	14
ツクツクボウシ	メス		0	7	7
ツクツクボウシ	けい 計	0	7	14	21
クマゼミ	オス				0
クマゼミ	メス				0
クマゼミ	けい 計	0	0	0	0
ニイニイゼミ	けい 計	52	10	3	65
	ごうけい 合計	53	57	25	135

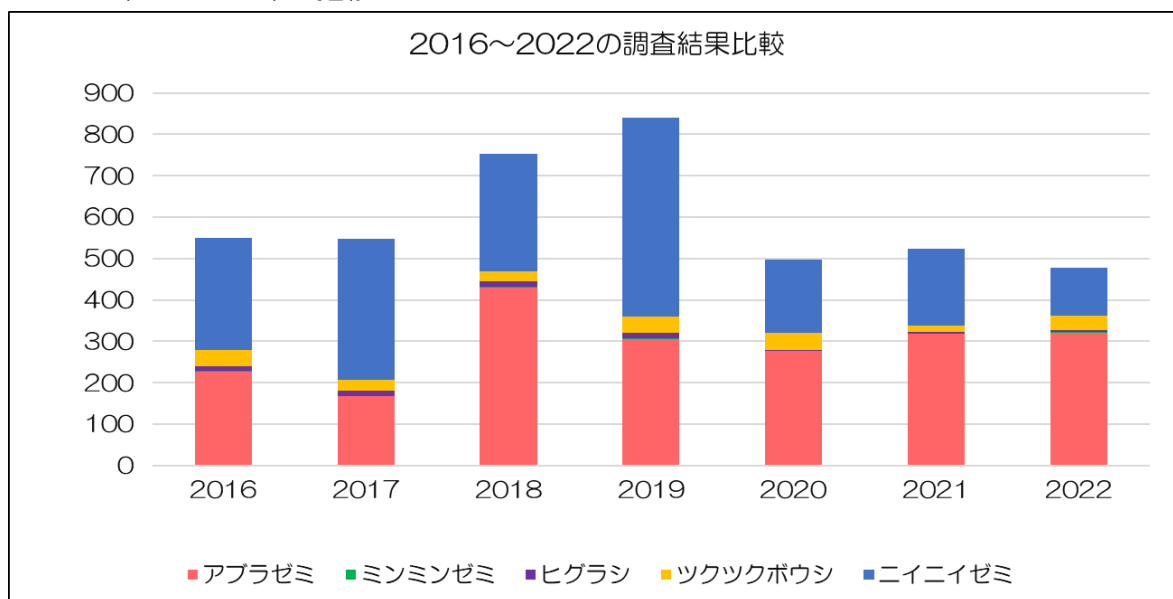


ぜんたい けっか
全体の結果

しゅるい 種類	オス・メス	7月26日	8月9日	8月25日	けい 計
アブラゼミ	オス	16	112	47	175
アブラゼミ	メス	0	71	75	146
アブラゼミ	けい 計	16	183	122	321
ミンミンゼミ	オス	1	0		1
ミンミンゼミ	メス				0
ミンミンゼミ	けい 計	1	0	0	1
ヒグラシ	オス	3	1		4
ヒグラシ	メス		1		1
ヒグラシ	けい 計	3	2	0	5
ツクツクボウシ	オス		11	13	24
ツクツクボウシ	メス		0	10	10
ツクツクボウシ	けい 計	0	11	23	34
クマゼミ	オス				0
クマゼミ	メス				0
クマゼミ	けい 計	0	0	0	0
ニイニイゼミ	けい 計	85	25	7	117
	ごうけい 合計	105	221	152	478



2016年～2022年の推移



	アブラゼミ	ミンミンゼミ	ヒグラシ	ツクツクボウシ	ニイニイゼミ
2016	226	2	11	39	272
2017	167	1	13	26	340
2018	430	2	13	24	283
2019	306	2	13	39	481
2020	277	0	1	42	177
2021	318	1	3	15	187
2022	321	1	5	34	117

- 2022年の調査で見つかったぬけがらの総数478個で、2016年以降、最も少ない数となった。
- 2022年の夏は、全国的に高かった。とくに夏の初め（6月下旬）から気温が高かった。ただし、梅雨明けが平年より遅く、セミの羽化が多い7月中旬から雨の日が多かった。また8月も台風13号の影響などで降雨量が多かった。雨が多いことで、羽化する時期を逃したセミが多かったのかも知れないし、ぬけがらが雨で流されてしまった可能性もある。
- ミンミンゼミのぬけがらは調査地Aで1つ見つかった。
- ヒグラシのぬけがらは、2020年以降減少傾向にある。
- ツクツクボウシの数は調査開始以来もっとも少なく、2021年の半分以下の数となった。
- 調査地Cのあずまや近くのコナラの植栽で、2019年まではニイニイゼミのぬけがらが多く見つかったが、2020年以降はその数が減少している。コナラの植栽はナラ枯れの被害が進んでおり、そのことと関係があるのかもしれない。その代わりにどうかは不明だが、近くのヤマボウシの木にニイニイゼミのぬけがらが多くなった。

ちょうさとうじつ ようす き な ごえ き
調査当日の様子。気がついたこと。鳴き声の聞こえたセミ。

1回目 (2022年7月26日 午前)

A 鳴き声はニイニゼミ中心。アブラゼミが少し。早朝の雨のせいか、かなり地面に落ちている。

B 鳴き声はニイニゼミが多く、遠くで少しだけアブラゼミ。サイトBからサイトCに移動する途中でヒグラシの鳴き声を聞いた。トイレの側のコナラ、クヌギはナラ枯れが進んでいる。

C 鳴き声ニイニイ アブラ少し。グラウンド反対側の奥の方の草丈が膝より高くなっている。

(草丈が低かった年は草でぬけがらが多く見つかった)

あずまや近くのヤマボウシの木の根元にニイニゼミが多い。コナラの植栽のまわりに幼虫が出てきた穴が多い。

2回目 (2022年8月9日 午前)

A 例年ほとんどぬけがらがなかった生け垣の方でいくつかぬけがらが見つかった。鳴き声はニイニイ、アブラ、ツクツクが多い。木の幹には少なく、クヌギの木の周りに落ちているものが多い。

B 草丈は膝丈くらい。草、木の葉、幹についているぬけがらが多く、地面には少ない。鳴き声はニイニイ、遠くでミンミン、ときどきヒグラシ。

C グラウンド側のロープ柵に産卵痕が多い。ニイニゼミの鳴き声多い。

3回目 (2022年8月25日 午前)

A 全体的に鳴き声が静か。前夜の雨のためか地面に落ちたものが多い。

B 遠くでミンミンとニイニイの鳴き声が少し聞こえる程度。

C グラウンド反対側奥の林からツクツクの声。あずまや側の林でアブラ、ミンミンの声を確認。

参考文献 気象庁報道発表資料 2022年(令和4年)夏(6月~8月)の天候

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2209/01b/tenko220608.html>

(2023年3月1日閲覧)